

平成 22 年度 事業計画

日本のあるべき姿を求め、社会が揺れ動いています。デフレ経済の中で、安値志向の定着、消費の低迷、経常経費の負担増、経済の回復や消費の動向が見極められない中で、旅行動向の多様化、情報の氾濫などめまぐるしく変化しています。

下呂市では昨年度「観光計画」の策定、「ホスピタリティ都市宣言」また今年度からは、入湯税の財源を観光振興事業に特化して重点配分されることになりました。

国では観光庁が、魅力ある観光地づくりによる宿泊日数の増加、「尽きることのない感動に出会える国 日本」の新キャッチフレーズで外国人客誘致を、また、岐阜県では「飛騨美濃じまん運動」、今年度開催の「全国豊かな海づくり大会」、24年度の「清流国体」に向けた動き、ウェルネスツーリズムなどの施策が進められることとなります。JR東海では「Shupo」、「飛騨路キャンペーン」などの展開、旅行各社では地域体験型の旅行企画の需要が高まってきており、今年度は下呂駅開業 80 周年を迎えます。

こうした中で、宿泊客の増加を目指し即効的な誘客対策と、将来に向けての人材育成や魅力ある観光地づくりを進めていかなければなりません。多様化するニーズに応えるため、地域での観光コーディネーターの役割が求められおり、岐阜の宝物や魅力を生かした提案、様々な手段やパブリシティでの情報発信、各地での観光物産展、キャラバンなどによる、誘致宣伝事業および観光客誘致会議などを開催してまいります。

「いでゆ夜市」をはじめ、「YOSAKOI ソーラン」など新たな誘客イベントの取り組み、市や関係団体の催事との連携、最近特に増えてきた街歩きや朝市などのニーズへの対応、植樹・清掃活動など環境整備事業を行い、近隣観光地との連携を深め複数泊できる魅力ある観光地づくりを目指し、おもてなしの向上を図ってまいります。また、高山線強化促進、研修事業としての「車上セミナー」や韓国儒城温泉、並びに日本三名泉との交流を図って参ります。

今年度からは下呂市観光協会連絡協議会の事務局を担当することになり、市内の一層の連携で魅力ある観光地づくり、誘客事業に努めてまいります。

下呂市、下呂商工会、下呂温泉旅館協同組合などとの連携を強化し、経済の活性化、雇用の拡大を図る事業を進め、昨年度完成した下呂交流会館「アクティブ」を中心に、MICEによるコンベンションを様々なチャンネルで誘致するように努めてまいります。

アクセスの向上、河川整備、安全確保のための基盤整備、“ワイドビューひだ”の大阪直通便の増発などを関係機関へ働きかけてまいります。

また、下呂市台湾事務所の効果的な運用、韓国との交流などから外国人誘客のための招致事業や観光展への参加など、インバウンド事業も積極的に進めてまいります。

国による法人組織の見直しのための協議や、懸案の会費、負担金の検討などを進め、一層の組織の充実と拡大を図ってまいります。

日本一のおもてなし、何度でも来ていただける下呂温泉を目指し、関係各位のご厚情と会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。